

相模原商工会議所 景気観測調査結果

(令和6年1月～3月)

円安によるコスト高、消費意欲の減退により、小売業や製造業の景況はやや悪化したが、**人の動きは活発でありサービス業は好況に向かう**。次期には**全体的に回復に向かう見込み**である。

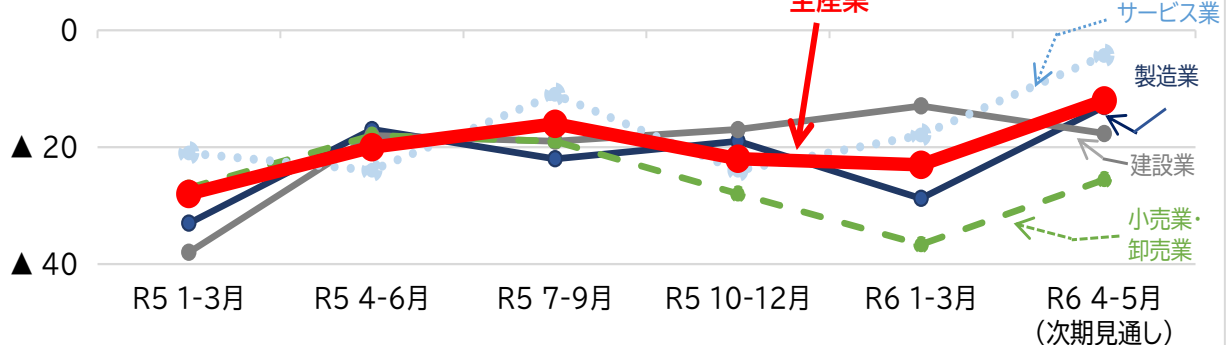
ポイント

- ▶ 令和6年1月～3月期の総合業況DIは▲23と、前期▲22とほぼ同じであった。飲食業・サービス業(前期▲24・今期▲18)は改善、建設業(前期▲17・今期▲13)と若干の増加であった。製造業(前期▲19・今期▲29)と小売業・卸売業(前期▲28・今期▲37)は悪化した。
- ▶ コメントによると、製造業、建設業では円安によるコスト高、小売業やサービス業では消費意欲の減退とインボイス対応などによる事務処理の手間の増加を訴える声が大い。人手不足や人件費上昇は全業種で深刻化し、それに対して昇給原資がないという悩みを上げる事業者も多い。コロナ禍の不況と異なり人の動きはあり、業種によっては好調である。
- ▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲12と、今期▲23から11ポイントの改善の見込み。飲食業・サービス業(今期▲18・次期▲4)は令和に入りもっとも高い数値となった。製造業(今期▲29・次期▲13)と小売業・卸売業(今期▲37・次期▲26)も大幅な改善の見込み。今期比較的好調だった建設業(今期▲13・次期▲18)は若干の悪化の予想である。

各業界から寄せられたコメント

- ・【プリント配線板製造】全体的な不況感はあるが、現在が底であり、4月以降は好転を見込んでいる。
- ・【土木、建築工事請負業・不動産事業】インバウンドの回復及びコロナ禍での投資抑制の反動もあり、投資意欲は旺盛。
- ・【衣類 化粧品 健康食品】コロナリベンジ消費もひと段落、景気の先行き不安から個人消費の落ち込みを感じる。
- ・【韓国料理、焼肉】不景気と感じるが、コロナ禍の時とは違い旅行に出る世帯が多いと感じる。人件費が高い。

業況別(総合判断) DI値の推移



	前年同期概要 (R5.1-3)	前々期概況 (R5.7-9)	前期概況 (R5.10-12)	今期概況 (R6.1-3)	次期見通し (R6.4-6)
製 造 業	▲ 33	▲ 22	▲ 19	▲ 29	▲ 13
建 設 業	▲ 38	▲ 19	▲ 17	▲ 13	▲ 18
小 卸 売 業	▲ 27	▲ 19	▲ 28	▲ 37	▲ 26
飲 食 サ ー ビ ス 業	▲ 21	▲ 11	▲ 24	▲ 18	▲ 4
全 業 種 (総 合)	▲ 28	▲ 16	▲ 22	▲ 23	▲ 12

業況天気図凡例

DI値 35以上	DI値 30~34	DI値 10~▲10	DI値 ▲11~▲30	DI値 ▲31以下

調査期間：令和6年1月1日～3月31日

回答率：15.0%

回答者数：556件

調査対象：当所会員事業所3,700事業所

＜＜景気観測調査＞＞

前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。

「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。